

## 「ビー玉のプラントン」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

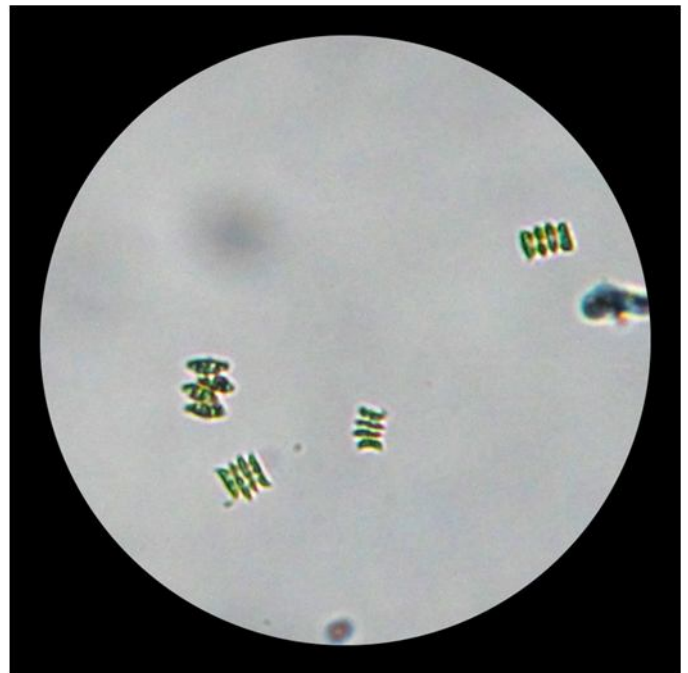
5年生のプラントン観察は、もっぱらライオン池(校庭の壁泉)と、理科室の(置きっぱなしの)水槽に頼っている。それでも十分なのだが、プラントンは、実にいろいろな場所に生息している。バケツに水を汲んで、そのまま1か月も放置すれば、大抵は緑藻類が繁茂する。

5年生の子どもが、「ビー玉にプラントンがいそうな水槽がある。」という情報を持ってきた。「ビー玉」というのは、学校の向かいにある「古風な」喫茶店のことで、私の行きつけの店だ。(私の現在の体成分の何%かは、ビー玉のモーニングセットで形成された。)その店先のメダカ水槽の水が、濃い緑色だというのだ。



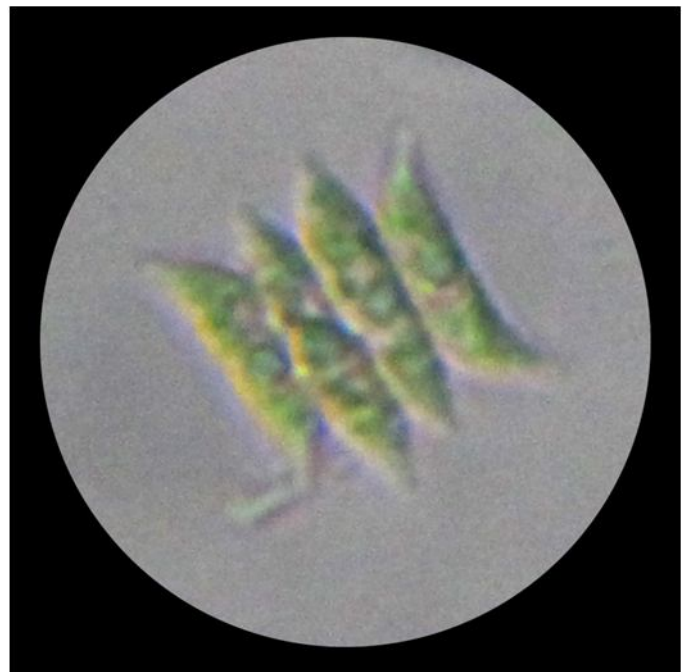
「喫茶ビー玉」 水槽は→の場所にある

私は、よくある「放置水槽」のように、水槽ガラスの内側に緑藻がへばりついているのだろうと思った。しかし行ってみると、確かに水全体が緑色に見える。例えて言うなら「青汁にメダカが泳いでいる」という感じで、水槽としては末期症状だ。メダカは水面ぎりぎりに来るまで、姿が見えない。私はその水を少しもらって、さっそく「理科準」で検鏡してみた。



「100倍で見たビー玉水槽水」

あの水槽を濁らせていた正体がわかった。どうやらイカダモの仲間のようだ。それも何種類も存在する。一番左の、交互に接合しているものは、セネデスムス属の一種 *Scenedesmus sp.* であろう。4細胞の定数群体である。これは優秀な学習材になりそうである。



「400倍で見たイカダモ」 「札幌軒の餃子」と似ている。デスマデスムス属の一種 *Desmodesmus sp.*